

香川県立保健医療大学リポジトリ

母性看護学概論と小児看護学概論における学生の学び：小論文テーマの分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 舟越, 和代, 松村, 恵子, 榮, 玲子, 小川, 佳代, 三浦, 浩美 メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/201

母性看護学概論と小児看護学概論における学生の学び

—小論文テーマの分析—

舟越 和代*, 松村 恵子, 榮 玲子, 小川 佳代, 三浦 浩美

香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

What the Nursing Major Students Were Interested in After Attending Introduction to Maternal and Child Health Nursing —An Analysis of the Themes Which They Chose for Their Essays—

Kazuyo Funakoshi**, Keiko Matsumura, Reiko Sakae, Kayo Ogawa, Hiromi Miura

*Department of Nursing, Faculty of Health Sciences,
Kagawa Prefectural College of Health Sciences*

Abstract

Academic interests of 90 major students in maternal and child health were analyzed. As a result, it was found that they were interested in “abuse of mothers and children” and “artificial abortion” and so on, which are social problems of their health.

These problems had the students think about the children's rights, the way of living as females, and the role of nurses. In addition, they viewed nursing as a whole with a reverence for life. It was found that, in their thought, nursing of mothers and their neonates during the perinatal period led to that of grown infants and children.

Key Words : 母子保健 (Maternal and Child Health), 看護学生 (Nursing Student),
学問的関心 (Academic Interest)

*連絡先 : 〒761-0123 香川県木田郡牟礼町大字原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 舟越 和代

*Correspondence to: Kazuyo Funakoshi, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0123, Japan

緒 言

本短期大学の看護学教育課程では、母性看護学概論と小児看護学概論は独立した教科目であるが、母子保健活動における現代社会の課題や、看護の目的・役割についての理解を深めるためには、二つの科目が連携した授業を展開することが重要と考える。つまり、母性看護学では、生命の誕生期にかかわる母と家族や新生児を対象とし、また小児看護学では、成育期の子どもとその母親と家族を対象としている。概論ではそれぞれの対象者の健康生活や発達を援助する看護について教授する。これらは、学生の思考の中で継続されることが望ましい。

授業の展開については、単元の重複など様々な方法が考えられるが、今回は『現代社会における母子保健と看護』に関する一つの単元を合同で授業する方法を選択した。また、合同授業の方法として、集団の相互作用に関する原理と個人の学習にかかわる原理を包括した方法とした。

具体的には、母子保健に関する幾つかの教育的意図をもって設定した課題について共同学習し相互研鑽する場と時間を持ち、そのうえで、個別学習により自らの考えを深め、小論文としてまとめる学習の機会を持った。これらの教育方法によって教育目的が達成できたのかどうか、学生は教授された教育内容についてどのような学問的関心を持ち、どのようなテーマについて学習しようとしたのかについて明らかにし、今後の母性看護学・小児看護学の講義の内容やあり方について検討することを目的とした。

本学の母性看護学概論と 小児看護学概論の講義の概要

本学における母性看護学概論と小児看護学概論はそれぞれ、1年次後期15時間（1単位）の履修科目である。母性看護学概論は、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から、女性と男性の健康と生活と看護について教授し、人間の性と生殖をめぐる諸問題について考えさせることを目的としている。小児看護学概論では、小児観の歴史的変遷と現代の小児と家族の置かれた環境について概観させた上で、小児看護の理念と目的について、また小児の成長・発達について教授している。

母性看護学概論及び 小児看護学概論の合同講義の概要

母性看護学概論と小児看護学概論、それぞれ10時間の講義の後、4時間の合同講義を行った。合同講義の目的は、「母性看護学と小児看護学に共通する保健の現況と動向を知り、子どもとその母親・家族が健やかに育つための看護師としての役割について考える」こととした。学生は、5～6名で構成された、計10グループに分れ、共同学習をした。共同学習の課題は、以下の5つを提示した。共同学習の成果は、学生の進行で発表し、質疑応答をすることで、理解の共有を図った。

<共同学習の課題>

1. 母と子どものための施設とその施設がどのような法律のもとでどのような役割をはたしているか、また、母子に関わる専門職の役割についても調べてみよう。
2. 妊産婦死亡、周産期死亡、乳幼児死亡とそれらの原因について調べ、例えばさらに学習を深め、小児の事故や児童虐待についても考えてみよう。
3. 近年のわが国の人口構造の変化を理解し、少子化が小児にどのような影響を及ぼしているのか考えてみよう。
4. 香川県の母と子どもに関する統計を調べ、全国と比較して、香川県における特徴を考えてみよう。
5. 人工妊娠中絶の年次推移とその社会的背景、またその弊害について調べるとともに、命の大切さについて考えてみよう。

その体験をもとにして、関心を持ったことや、もっと詳しく調べたり考えたりしたいと思ったことについて、学生が各自でテーマを設定し小論文を書くという課題を提示した。

方 法

対 象 者：平成14、15年度に母性・小児看護学概論を履修した短期大学学生96名。

調 査 内 容：母性・小児看護学概論の課題として学生が設定したテーマ。

分 析 方 法：学生の小論文のテーマについて、類似しているものをまとめて、サブカテゴリーを作り、さらにそれらの類似性を検討し、カテゴリーにまとめた。内容の妥当性を確保するために、この過程を

研究者間で意見が統一するまで繰り返し行った。
倫理的配慮：当該学生には、研究の目的と、学生が提出した小論文のテーマを使用すること、個人の氏名がでることではないこと、評価にも関係ないことを、文書と口頭で説明し、同意のサインを得た。

結 果

96名中90名の学生から承諾が得られた。学生が設定した小論文のテーマ90件から類似したものをまとめると、23のサブカテゴリーが抽出された。次に、サブカテゴリーの類似性を検討した結果、7つのカテゴリーが抽出された。表1に学生が設定したテーマと抽出されたサブカテゴリー、カテゴリーを示した。

カテゴリー【虐待36件】は、サブカテゴリー＜虐待22件＞、＜虐待と家族の機能4件＞、＜虐待が子どもに及ぼす影響3件＞、＜虐待の原因3件＞、＜虐待とケア2件＞、＜虐待と現代社会＞、＜虐待と命の尊さ1件＞の計8つのサブカテゴリーで構成されていた。

カテゴリー【人工妊娠中絶15件】は、サブカテゴリー＜人工妊娠中絶5件＞、＜若年層の人工妊娠中絶2件＞、＜人工妊娠中絶の身近な例3件＞、＜人工妊娠中絶の増加理由2件＞、＜人工妊娠中絶と命の尊さ3件＞の計5つのカテゴリーで構成されていた。また、カテゴリー【望まない妊娠と虐待3件】は、人工妊娠中絶と虐待に関連づけたテーマ設定をしているものでまとめられた。

カテゴリー【子どもの健康と家族15件】は、＜家族へのケア6件＞、＜母乳育児2件＞、＜子どもの健康5件＞、＜子どもの成長2件＞の4つのサブカテゴリーで構成されていた。

カテゴリー【母と子どもの為の社会的支援11件】は＜母子保健事業7件＞、＜少子化2件＞、＜海外の子育て観との比較2件＞の3つのサブカテゴリーで構成されていた。

カテゴリー【周産期をめぐる問題4件】は＜妊婦と胎児の健康3件＞、＜低出生体重児1件＞の2つのサブカテゴリーで構成されていた。

カテゴリー【生殖医療4件】は、出生前診断や不妊に関するものでまとめられた。

考 察

わが国の母子保健活動は、子育て支援を基盤にし

た母子の生活の質の向上を目的としている。しかし近年の母子を取り巻く社会環境は、急速に進行する少子化や、児童虐待の増加など、けっして楽観できる状況ではなくなっている。今回、母子保健における学生の学問的な関心がどこにあるかを明らかにする為に、本学の母性看護学概論と小児看護学概論における合同講義を受講した学生の小論文のテーマを分析した。

その結果、【虐待】に関するものが一番多くみられ、学生は虐待について関心が高いことがわかった。2000年に「児童虐待の防止等に関する法律」が制定され、児童相談所における虐待に関する相談件数は増加傾向にある¹⁾こと、虐待によって子どもが犠牲になるニュースがマスメディア等で多く取り上げられることで、学生は普段から見聞する機会が多い。このことが【虐待】を取り上げる理由ではないかと思われる。具体的には、虐待と心的外傷後ストレス障害や登校拒否等子どもの心の問題と関連づけて考えたり、虐待を社会現象として捉え、虐待が起きる原因についても追求していた。虐待と家族の機能とか、マタニティーブルーとも関連付けて考えていた。子どもの視点のみでなく、母親や家族の置かれた状況にも考えが及んでいることがわかる。そして、虐待を受けた子どものケアについて考えたり、虐待について自分たちにできることはないかという看護者の役割についても関心を示していた。さらに、虐待から「命」の尊さについて考えようともしていた。学生は小児看護学概論の講義で子どもが幸せに生きる権利を保障することについて学んでおり、マスメディアの影響でよく見聞する社会的な問題としての【虐待】としてだけではなく、看護者として命の尊さを理解し、どう関わっていくべきかについて学習を深めたいと思ったことが窺われる。

次に多かったのは、【人工妊娠中絶】であり、特に学生は若年層の人工妊娠中絶について関心があったことがわかる。講義や共同学習で、20歳未満の人工妊娠中絶が増加傾向にあること²⁾を知り、「1週間母親になった友達」等、身近な具体例をあげて人工妊娠中絶について考えようとしていた。これは、対象学生のほとんどが10代であり、かつ身近に経験者が存在するという環境の中、同世代の問題として意識しやすいテーマであったことが考えられる。あらかじめ教員が提示した学習課題の中に学生らが居住する地域の母と子どもに関する統計についての課題があったことで、より関心を深めたのではないかと推察する。

表1 母性看護学概論と小児看護学概論における合同講義後提出した小論文のテーマの分析

カテゴリー	件数	サブカテゴリー	件数	学生が設定したテーマ	件数
虐待	36	虐待	22	児童虐待	14
				幼児虐待	1
				虐待	4
				子どもの虐待	1
				児童虐待を考える	1
				性的虐待	1
				児童虐待とDVから家族の機能を考える	1
		虐待と家族の機能	4	乳幼児虐待について一愛が足りないー	1
				児童虐待を繰り返す親たち	1
				虐待とマタニティブルーの関連性について	1
		虐待が子どもに及ぼす影響	3	幼児虐待とPTSD	1
				虐待を受けた子どもに残る後遺症	1
				子どもの登校拒否とその子どもに対する援助ー子育て虐待について考えるー	1
		虐待の原因	3	虐待はなぜ起こるのか	1
				児童虐待の原因	1
				どうして虐待はおこるのかー防止の為にできることー	1
		虐待とケア	2	虐待を受けた子どものケア	1
				虐待の現状と私たちにできること	1
		虐待と現代社会	1	虐待と殺風景な現代社会	1
		虐待と命の尊さ	1	日本の児童虐待の現状や虐待が子どもに及ぼす影響、虐待を防止するための対策などについて理解する、そしてなぜ虐待が起きるのか、また虐待を通して命の尊さについて考える	1
望まない妊娠と虐待	3	望まない妊娠と虐待	3	望まない妊娠と児童虐待	1
				望まない妊娠が与える影響ー人工妊娠中絶と幼児虐待ー	1
				児童虐待についてー望まれない妊娠、出産による虐待と日本のあり方ー	1
人工妊娠中絶	15	人工妊娠中絶	5	人工妊娠中絶	5
				人工妊娠中絶の背景ー命は大切にー	1
		人工妊娠中絶と命の尊さ	3	人工妊娠中絶から考える「命」	1
				人工妊娠中絶を考えるー生まれなかった命と女性に残る傷跡ー	1
				人工妊娠中絶の身近な例	1
		人工妊娠中絶の身近な例	3	1週間母親になった友達	1
				身近で起きた人工妊娠中絶の問題から学んだこと	1
				人工妊娠中絶ー友人のインタビューに基づいてー	1
		若年層の人工妊娠中絶	2	10代の人工妊娠中絶	1
				10代の人工妊娠中絶と向き合う	1
		人工妊娠中絶の増加理由	2	死産、流産と人工妊娠中絶についてー増え続ける理由とはー	1
				人工妊娠中絶ー増え続ける理由とはー	1
子どもの健康と家族	15	家族へのケア	6	母子関係の問題	1
				母性・父性の存在と養子制度問題	1
				赤ちゃんを亡くした両親への援助	1
				死産後の精神的ケア	1
				死産、流産で子を亡くした人の話から学ぶ	1
				カンガルーケアが及ぼす母子関係	1
				母乳育児	1
		母乳育児	2	母乳育児の効果	1
				母乳育児の視点	1
		子どもの健康	5	小児肥満	1
				小児心身症	1
				登校拒否	1
				子どもの登校拒否とその子どもに対する援助・子育て	1
				小児の事故について考える	1
		子どもの成長	2	小児の成長	1
				幼児の眠り	1
母と子どもの為の社会的支援	11	母子保健事業	7	母子保健事業	1
				在日外国人の母子保健	1
				母子保健上の問題ー母親の立場からその原因を探るー	1
				安心して子育てができる環境にするために	1
				家庭、家族を考える	1
				子どもの家庭に対する考え方	1
				無認可保育所	1
		少子化	2	少子化について考える	1
周産期をめぐる問題	4	妊婦と胎児の健康	3	少子化の現状と対策	1
				アメリカ、韓国の子育て意識、日本との違い	1
				アメリカの子育てから考えること	1
		妊婦の喫煙	3	アメリカの子育てから考えること	1
				赤ちゃんには大問題ー妊娠と喫煙ー	1
				妊娠における栄養管理	1
		低出生体重児	1	低出生体重児の増加と社会的背景について	1
				低出生体重児の増加と社会的背景について	1
生殖医療	4	生殖医療	4	生殖医療のあり方を問う	1
				出生前診断の問題	1
				不妊とその対策ー原因と現状ー	1
				代理母出産について	1

また、「人工妊娠中絶とピル」等、家族計画と関連付けようとしたり、人工妊娠中絶が女性に及ぼす影響や増加する理由についても考えようとしていた。そして、人工妊娠中絶から「命」の尊さについて関心をもって学習しようという姿勢も窺えた。

【子どもの健康と家族】は、「小児肥満」、「小児心身症」等の具体的な疾患を取り上げて現代の子どもの特徴的な健康問題について考えたり、子育てに関する母子関係のことや、母性・父性について関心を持って学習しようとしていることが窺われた。また、「子どもを亡くした両親への援助」等、子育てすることで生じる健康上の問題に、看護者としてどうとりくむかということにも関心を持っていた。

【周産期をめぐる問題】は、妊婦の喫煙や栄養管理に着目し、胎児に与える影響についても考えようとしていた。

【母と子どものための社会的支援】は、安心して子育てができる環境について考えようとしていた。また国内の統計データや現象から分析するのではなく、視点を変えて外国の子育て観と比較して日本の子育てのあり方について考えるということに関心を持っていることもわかった。

【生殖医療】は、倫理上の問題も含めて、現代社会において解決されるべき内容である。あらかじめ提示した課題の内容ではなかったが、学生が共同学習する中で関連用語として出てきたものであり、「代理母出産」が社会的に注目されていることにも関連して調べてみたいと思ったのではないかと推察する。

以上、母性看護学概論と小児看護学概論の合同講義から、学生がどのような学問的関心を持ったかについてみてきた。大半は、共同学習の課題を踏襲したものであったが、現象の理由のみを考えるのではなく、生命に対する畏敬の念を持って、看護者としての役割について考えようとしていた。前述したように、学生は、小児看護学概論では子どもの権利について、母性看護学概論ではリプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から女性と男性の健康と生活と看護について学び、人間の性と生殖をめぐる諸問題について考えてきている。それらが、命を大切にす

る視点につながったことが推測される。

解することは現代の母性看護と小児看護を考える第一歩として重要である。母性看護学と小児看護学への学問的関心が高まり、専門的な視点で自ら学んでいこうとする姿勢を育てる必要がある。今回、この学習方法の一つとして、生命の誕生期にかかわる母と家族、そして新生児への健康生活を援助する看護から、子どもの成長発達を援助する看護へと、継続的な思考の発達ができることを意図し、母性看護学・小児看護学の合同授業を試みた。小論文のテーマを分析した結果では、「望まない妊娠と虐待」のように継続的な思考が展開されようとしていることが明らかになった。このことから、合同で行う授業の意義があることがみいだされた。看護師の養成に関する指定規則の改正により、母性看護学と小児看護学の講義時間は減少し、限られた時間内でより効率的に学習することが強く求められている。学生の主体的な学習が必要とされる共同学習を行い、かつそれを個別学習として小論文を課すことで、学生一人ひとりが、学問的関心のもとに一つのテーマを追求する機会となる。

結 論

本学の母性看護学概論と小児看護学概論における合同講義を受講した学生の小論文のテーマを質的に分析し、学生の学問的関心がどこにあるかを明らかにした。学生は、社会的な現象として、母子保健上問題となっている「虐待」や「人工妊娠中絶」に関心を示しており、その現象のみに着目するのではなく、生命に対する畏敬の念を持って、看護者としてどうするかということまで考えようとしていた。また、生命の誕生期にかかわる母と家族や新生児への健康生活を援助する看護から、子どもの成長発達を援助する看護へと、継続的な思考ができていた。

文 献

- 1) 厚生労働省 (2001) 厚生労働白書. p16.
- 2) 香川県健康福祉部子育て支援課 (2002) かがわの母子保健. p82-88.

受付日 2004年10月28日